

写真展

原爆が遺した子ら

入場無料

主催 きのこ会 / きのこ会写真展実行委員会
協力 核兵器をなくす日本キャンペーン/地平社

会場
ギャラリー古藤
西武池袋線「江古田」駅徒歩5分

原爆小頭症・声なき被爆者の80年

2025年 **8/2(土)～8/6(水)**

OPEN 11:00～19:00 (最終日のみ 17:00 終了) 8/2・8/6 ギャラリートーク(詳細裏面)

封印されてきた原爆被害と家族たちの苦難——

原爆小頭症当事者家族の会「きのこ会」の記録写真、東京初の本格展示



© 菅沼清美



© 菅沼清美



© 重田雅彦



原爆投下から 20 年、隠されてきた胎内被爆の被害者らが結成した「きのこ会」。報道されることを拒む家族の撮影を許されたのは、報道写真家をめざす若き学生たちだった。被爆 80 年の夏、貴重な記録写真から核の被害を見つめ直す。

© 重田雅彦

写真展「原爆が遺した子ら」開催にあたって

広島・長崎に投下された原子爆弾は、母親の胎内で育ちつつあった胎児にも容赦なく放射線を浴びせた。妊娠早期に近距離で胎内被爆した例の中に、頭が小さく先天性の知的障害や身体障害のある子どもがあった。原爆小頭症である。

最も若い被爆者と呼ばれた小頭症被爆者たちと家族が 1965 年に設立したのが「きのこ会」である。生まれつき体が弱く、医師から 20 歳までは生きられないと言われた彼らは、その障害により様々な苦難にさらされた。母の胎内で被爆し翌年に生まれた彼らがなぜこのような人生を歩まなくてはならなかったのか。

2024 年 3 月末現在で、原爆小頭症と認定を受けている人は 12 人となった。本写真展ではきのこ会の記録写真を数多く撮影した写真家の重田雅彦氏、菅沼清美氏の協力を得て、この世に生まれでる前に胎内で被爆した原爆小頭症の当事者とその家族に焦点をあてた。被爆 80 年の今年だからこそ、広島に原爆が投下された 8 月 6 日を前に、あえて東京で公開する。

ギャラリートーク

*開催中は展示鑑賞のみのご入場はできません

① 8 月 2 日 (土) 16:00～17:00

太田昌克 (共同通信社編集委員)

斉藤とも子 (俳優)

平尾直政 (きのこ会事務局長)

② 8 月 6 日 (水) 16:00～17:00

永田浩三 (武蔵大学名誉教授)

松永優佳 (立教大学大学院生)

平尾直政

参加費：各回 1000 円 (税込) **学生無料**

定員 30 名 (予約優先)

下記 URL または QR コードから
ご予約ください



<https://forms.gle/97d21KumXu4bWQkh7>



【関連書】

きのこ会 60 年の歩みと、それを支えた
記者たちの情熱を描いた唯一無二の記録

広島のともしび

原爆小頭症「きのこ会」と記者・秋信利彦

平尾直政 (きのこ会事務局長、元中国放送記者) 著

地平社より 2025 年 7 月中旬発売

定価 2,640 円 ★会場で販売します

会場 ギャラリー古藤 (ふるとう)

東京都練馬区栄町 9-16 (武蔵大学正門斜め前)
西武池袋線「江古田」駅南口徒歩 5 分
都営大江戸線「新江古田」駅 A2 出口徒歩 10 分
西武有楽町線「新桜台」駅 2 番出口徒歩 6 分
TEL 03-3948-5328



主催 きのこ会/きのこ会写真展実行委員会 お問い合わせ: kinokokai@outlook.jp